

◆機織り

日本の伝統工芸産地の事情をみると、どの産地も生産者の高齢化、後継者不足の問題を抱えており、牛首紬の産地も例外ではなく、この事が大きな懸案となっています。牛首紬は10数年前の早くからこの状況を真摯に捉え、早急に対応すべき課題として、永らく試行錯誤を重ね、改良に取り組んできました。

牛首紬では、従来は手織りにて生産を続けてきましたが、織りの作業は手足ともに非常に力の必要とするもので、体力の低下傾向にある高齢の織り手の方ですと、織りの打ち込み作業に集中することが難しく、ばらつきやタイミングのずれが生じやすく、品質の安定を保つことが困難となってきました。

そこで、手織りに近い構造の力織機（人力ではなく動力を使用）を導入し、独自に改良を施し、織り手がそれぞれ1台のみ受け持ち、ゆっくり、あるいは停止させたりと慎重に織る作業を行い、これにより品質の安定が保たれました。

きわめて手織りに近い補助動力的な感覚のこの織機は「たまいと機」と呼んでいます。

現在、手織りの牛首紬は経済産業大臣指定伝統的工芸品、また石川県指定無形文化財に指定されています。この「たまいと機」で織られた牛首紬は前者の条件は満たしていますが、後者の石川県指定無形文化財に関しては、定義の一つに「高機」を使用することが条件となっており、「たまいと機」はこれには該当せず、今後は商品に貼付してある保証書からの明記は無くなります。